

おにぎり通信

2009年10月3日 (土曜) 四ツ谷おにぎり仲間

こんにちは!私たちは毎週土曜日に、四ツ谷周辺と銀座・日比谷公園、東京駅周辺で生活されている方々を訪問しているボランティアグループです。

秋の大型連休シルバーウィークも終わり、10月に入りました。みなさん、この 1週間 おかわりなくお過ごしでしたか? さて、10月9日は二十四節気の一つ、「寒 露(かんろ)」です。「寒露」の意味は「秋が深まり野草に冷たい露がむすぶ」、 「朝露が一段と冷たく感じられる晩秋のはじまり」だそうで、初秋から ばんしゅう 晩秋へと移りゆく様をとらえた季節をあらわす言葉なのですね。

また ばんしゅう そな いるい ぼうかんぐ じゅんび かぜ アインフルエンザなどの体調変化 来る晩秋 に備え、衣類や防寒具の準備、風邪やインフルエンザなどの体調変化 にも気をつけながらこの時期過ごしていきたいものですね。

※ 二十四節気は、太陰暦を使用していた時代に、季節を現すための工夫として考え出されたもので、1年を24等分にし、その区切りに名前をつけたもので、現在でも季節の節目節目に、これを示す言葉として使われているそうです。





A さん(43歳):相談事があり福祉事務所へ相談。千代田寮の申し込みもされ、 下ゆうしょ は てい 入 所予定となりました。

次回の福祉行動: 10月5日(月)、東京駅丸の内北口タクシー乗り場前に、朝 ではん 8時半までに集合です。

病気やケガの治療を希望される方や、体を休めたい方と一緒に福祉事務所まで、ボランティアが同行いたします。福祉行動は原則として毎週月曜日に行います。福祉行動は参加されるそれぞれの方が、ご自身の希望をご自身の言葉でハッキリと福祉事務所に伝えることにより成り立ちます。

最寄の福祉事務所

ちゅうおうくふくしじむしょ
ちゅうおうくっきじ
ちゅうおうくやくしょ
かい

<td rowspan="2" color="block" color="block" color="block" color="block" color="block" color="block" color="color="color="block" color="c

母子加算が実績第1号?=長妻厚労相指示、復活へ作業加速

及れたゆとう はいけんこうやく かか せいかっほご ぼしかさん ふっかっ じつげん む うご はじ ながっま 民主党がマニフェスト (政権公約) で掲げた生活保護の母子加算の復活が、実現に向けて動き始めた。長妻 あきらこうせいろうどうしょう にち きしゃ かいけん ねんない い はや ふっかっ 昭 厚生労働相 は17日の記者会見で、「年内と言わず、早めに復活したい。10、11月に復活するとした らどういう方法があるか、早急に検討するよう指示した」と意欲を示した。

母子加算は、母子家庭に月額約2万円を上乗せする制度。今年3月末で全廃された。同党は5月、当時政調かりまうだいり ながっまし なっかっきぎょう せっち こうろうしょう ぎろん かき 会長代理だった長妻氏をトップとする復活作業チームを設置し、厚労省などと議論を重ねてきた。復活に法かいせい かよう たいしょう やく かんかっ はっち ひこは不要。対象は約10万世帯で、必要な財源は半年間で約90億円。作業チームの中心メンバー、山井かずのりこうろうせいむかん しんせいけん れたけスピーディーに問題に対応できるかの試金石になる」と力を込める。

17日には市民団体が早期復活を求める集会を都内で開催。中学 1年と 3歳の男児と暮らす京都市のせませい (32) は「長男 に発達障害 があるため働けず、クラブのユニホームも買えない。母子加算がなくなり子供たちの将来 が不安」と訴えた。

藤井裕久財務相は18日の記者会見で、「10月からの復活なら現行予算の範囲でできる。予備費での対応 世代が入し、 ひと も選択肢の一つだ」と援護射撃した。しかし、生活保護費の増加は自治体の負担増につながるとあって、上田 をおおきつぼうしちょう か しゅしょうしゅうにんまえ はとやまゆ き お みんしゅとうだいひょう あ さい ちほうざいせい はいりょ ようぼう 文雄札幌市長は9日、首相就任前の鳩山由紀夫民主党代表に会った際、地方財政への配慮を要望した。

母子加算は、大きな反対の声があったのにもかかわらず、今年3月廃止されま 母子加算は、大きな反対の声があったのにもかかわらず、今年3月廃止されま ほか ろうれいかさん はいし つういんこうつうひ げんそくふしきゅう じどうふょうてあてさくげん ほうしん した。他にも老齢加算の廃止、通院交通費の原則不支給、児童扶養手当削減の方針 とう かんしゃかいほしょう と ま じょうきょう しゅくしょう ほうこう ます 等、この間社会保障を取り巻く状況は縮小の方向へと進んできていました。

今回の母子加算の復活が実現すれば、こうした一連の状況に歯止めがかかることにもなり、社会保障制度全体が改善されるような方向への転換となるきっかけになるのではと思い、一日も早い実現を願っています。

おにぎりを包んでいるラップや読み終わった通信は放置せずに、ゴミ箱に入れるなどして片付けにご協力をお願いいたします。おにぎりはなるべくその日のうちにお早めにお召し上がり下さい。

四ツ谷おにぎり仲間 連絡先:090-4959-0652(岩田) 090-4121-3721(新井)